

牛乳パックのリサイクルから命のつながりへと広がる循環の輪

環境大臣賞 埼玉県 川口市立安行小学校

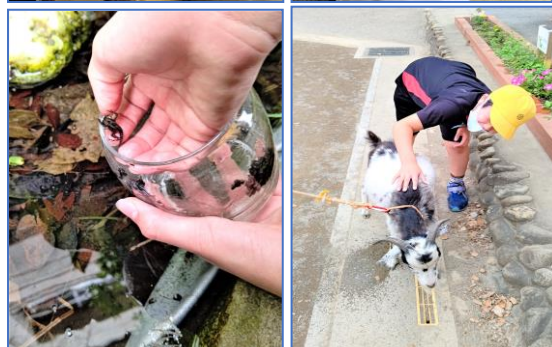
植木の里として知られ、花と緑が絶えることのない街、安行。周囲を樹木に囲まれた環境の下、同校では地域とともに独自のリサイクルに取り組む。2013年に始めたのが、給食の牛乳パックを環境委員会が回収して古紙回収業者に引き渡し、トイレトーパーに交換する活動だ。その後、資源の有効活用に着目し、古紙回収も実施。月1回「紙の日」を設けて、地域にも協力を依頼、回収日には大量の古紙が方々から集まる。2015年からは、川口市の団体が取り組む資源リサイクルと障がい者の仕事づくりをつなぐ「グリーンサポート運動」にいち早く参加。同校近くの社会福祉法人「ごきげんらいぶ」に入所するメンバーが、児童から直接牛乳パックや古紙を受け取り、トイレトーパーを手渡す活動に発展。量が増えるとかさばる牛乳パックを、障がい者の人たちが持ち運びしやすいよう、牛乳パック専用の回収箱を手づくり、ヒモ等で圧縮している。

リサイクルが福祉活動へと広がりを見せる中、もっと楽しく取り組めるようにと始めたのが、校内環境通貨「くすのきチケット」。牛乳パックを開いて洗って乾かしたものを回収箱に入れると、チケットがもらえるしくみだ。回収箱に丁寧に並べることができたらボーナスチケットが出るなどエコ活動のアイデアが満載で、集めたチケットは、安行小まつりの「エコマーケット」で使える。

こうしたリサイクル活動は、自然の中の大きな循環のひとつに位置付けられ、古紙以外にも、給食の果物の皮を集めてコンポストに入れる土づくり、絶滅危惧種のアカガエルの飼育や保護、ヤギやホタル、カイコなど飼育を通じた命のつながりを実体験している。指導に当たるのは住民や地域団体で、飼育法を教わりながら育てたオタマジャクシやカイコなどは、児童がエコマーケットで販売。

住民の牧野真知子さんは、「ここで学んだ子どもたちが、いつの日かファシリテーターとして活躍すれば、世の中が変わるかなと期待しています」とほほえむ。

—安行はひとつ—このあたりで言い伝えられてきた言葉だ。そんな地域愛に包まれながら、児童は自分たちの取り組みを内外に発信、やり遂げる達成感をかみしめている。



埼玉県 川口市立安行（あんぎょう）小学校

学校長：春川 嘉孝（はるかわ よしたか）

児童数：912名(2022年11月末現在)

住所：埼玉県川口市安行原2020

電話：048-295-1803

アクセス：埼玉高速鉄道「戸塚安行駅」から車で約10分

上：社会福祉法人「ごきげんらいぶ」からリサイクルされたトイレトーパーを受け取る児童、2左：牛乳パックを丁寧にヒモで結び持ち運びやすく工夫、2右：校内環境通貨「くすのきチケット」、3左：絶滅危惧種のアカガエルの飼育、3右：学校で飼っているヤギ、下：果物の皮をコンポストに入れて土づくりに励む